



笑うと小さなえくぼが出来ます。純真で無邪気さ溢れる笑顔を見たら、誰でも愛せずにはいられないでしょう。この子は海芳といって、2001年5月、初めて出会った時は北山小学校の一年生でした。黄土高原のど真ん中、黄河近くの貧しい僻地でこのような可愛い子どもを見かけたら、あなたの一日の疲れも瞬時に消えてしまうに違いありません。

藍色の運動着の上にローズ色のチョッキを重ねて、顔いっぱいの笑顔がこぼれそうです。赤い靴には沢山の毛糸のボンボンが付いています。こんな風に愛娘を装わせるとはずいぶん遣いのこまやかなお母さんです。海芳は地面にべったり座り、手に鉛筆を持って使い古された教科書に点や線を書いています。黄土の壁が背景でなければ、皆、町の子が遊んでいると思うでしょう。



10日後、私は再びここに来ました。たったの10日しか経っていませんのに、気温はずっと高くなり、5月の日差しは、初夏の先触れのように、子供達は皆夏の装いになっていました。海芳も藍色の布飾りを縫い付けた白いワンピースを着、きれいに梳かした前髪を切りそろえ、後は羊の角のように一對のお下げに編み上げてピンク色のリボン飾りをつけていました。大きな眼をぱちぱちさせて、あなたに笑い掛けたら、誰でも立て続けにカメラのシャッターを押してしまうと思います。

同じ年の夏休み、私は海芳の家にアンケートを書いてもらいに行きました。簡単なアンケートでしたが、一年生の子どもには、それも教育水準の低い地域の子どもには、アンケートに書き込むのは難しい様子でした。しかも皆が注視している中です。嬉しそうにしていた海芳でしたが、母親に催促されたり、仲間が取り囲んで見ているのでどうしてよいか分からなくなってしまいました。海芳はすっかり緊張して、緊張すればするほど書けなくなり、とうとう泣き始めてしまいました。泣き始めると自分でもどうしてよいか分からなくなって、油の瓶を下げられるほどに小さな口を尖らしているだけです。どうにかアンケートを完成させ、持って来たのを見ると私はいっぺんに楽しくなりました。アンケートには“大きくなったら軍人になる”と書いてあるのです。まあ、なんて元気なんでしょう！私は海芳を門の入り口のシェパード犬のところへ引っぱり行って、

“解放軍になりたかったら泣いちゃ駄目だよ。ほら、シェパード犬も海芳を怖がってるよ”と言いました。実は、このシェパード犬は私をはじめて見た時には狂ったように大きな声で吼え立てましたが、この時は、海芳の傍らで静かに寝そべっていました。雰囲気はよくなったので、ついでに海芳とお母さん、お母さんの方のお祖母さんも一緒に記念撮影をしました。

多くの子どもの取材をしましたが、お母さんたちの殆どは自分の子どもの生年月日を正確に言えません。過ぎた日々を押し量って、おおよその日にちを言うだけです。海芳のお母さんだけがすぐに正確な年齢を伝えました。学校に行ったことがあるか訊いてみますと案の定小学校に行っていたとのこと。女の子は社会を継続させる一員であり、いつか必ず人の妻となり、人の母となります。教育を受けなければどうやって彼らの子供達を教え導くことが出来るでしょう？

2003年3月4日は、陰暦の2月2日に当たり、農の諺で“2月2日は龍が活動を始める”といわれており、この辺りでは廟会があります。廟会といっても今では自由市のようなものです。人々は春の農作業に必要な化学肥料や、種子、農具の類を準備し始めるのです。しかし、この年は運悪く、ポタン雪が降り始め、あたりいちめん雪の花が舞う天気になって、あっという間に山も村も雪で覆われてしまいました。私が雪の中を歩いて行きますと、思いがけないことに前方に赤い小さな点が現れました。赤い点が近づいてきて、はっきり見えるところまで近づくと、それはよく知っている、可愛らしい、まだ幼い笑顔の海芳ではありませんか！どこから来たのですか？そしてどこへ行くのですか？彼女と別れてから、私は銀色に装われた世界をひとり歩きながらいろいろと想像を巡らせてみるのです。

(田井訳)